

航空機の騒音を調べてます

～ 百里飛行場周辺10地点の調査結果 ～

音の性質と騒音について

音は、空気などが波となって伝わる現象です。例えば、太鼓をたたくと太鼓の表面が振動して、周りの空気に振動が伝わることで音が遠くにも届きます。

騒音とは望ましくない音のことをいい、騒音によって会話が聞き取れなかったり、よく眠れなかったりすることが長期間続くとストレスを感じて心身のバランスを崩してしまうこともあります。



騒音の大きさの目安について

音の大きさの単位はdB(デシベル)を使います。下表は騒音の大きさの目安を示したもので、40dBではほとんど気になりませんが、60dB位になると多くの人がうるさく感じるようになります。

dB	騒音の目安
80	航空機の機内
70	在来鉄道の車内、セミの声
60	銀行の窓口周辺
50	書店の店内
40	戸建住宅地(昼間)、図書館の館内

全国環境研協議会騒音小委員会資料より作成

航空機騒音実態調査について

【目的と方法】

県では航空自衛隊百里基地と茨城空港との共用となっている百里飛行場周辺の航空機騒音を測定し、環境基準の達成状況を確認しています。この調査結果は航空機騒音対策に関する取り組みに役立てられます。

飛行場の周辺10地点(短期測定地点)では、2週間測定した値を基に、年間の騒音の大きさを推定し、環境基準を達成しているかどうかを判断します。また、騒音は、 L_{den} (エルデン)という指標で評価しています。

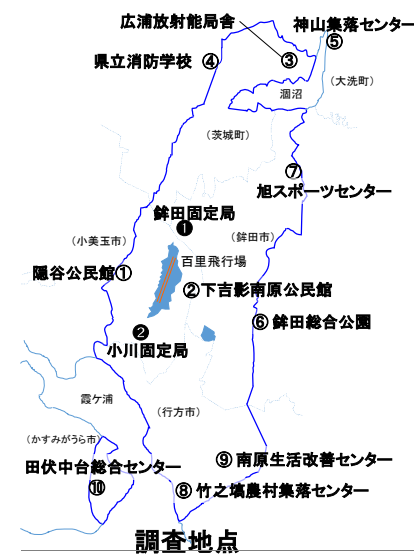
【調査結果】

平成25年度から令和5年度までの結果を見ると、滑走路南北の近くの常時観測2地点(①、②)では環境基準値を超えています。年々減少する傾向がみられます。

周辺10地点(①～⑩)では、滑走路東の近くに位置する②において環境基準を超えることもありますが、おおむね環境基準を達成しています。



測定の様子



調査地点

